

地方自治体の広報誌で用いられる カタカナ語の使用実態

—香川県広報誌「THE かがわ」を一例として—

藤原史織（山梨学院大学）・山下直子（香川大学）
fujiwara.shiori@c2c.ac.jp・nyamash@ed.kagawa-u.ac.jp

【要約】

本稿は、生活者を対象としたカタカナ語彙の学習教材の開発に活用できる語彙リストを作成することをめざし、地方自治体の広報誌である香川県広報誌みんなの県政「THE かがわ」で用いられるカタカナ語の使用実態を調査／分析した。その結果、IT 関連および新型コロナウイルス関連のカタカナ語が多数使用されていること、約 6 割が複合語であること、9 割以上の語が名詞であることがわかった。また、生活に必要なカタカナ語は、一般的な初級学習者が学習するカタカナ語に比べて難易度が高いこと、さらに、語彙に地域差があることが示唆された。

1. 研究の背景と目的

日本の在留外国人数は新型コロナウイルス感染症の影響で一時的に減少したものの、2023 年 6 月末現在で 322 万 3,858 人、前年末に比べ 14 万 8,645 人（4.8%）増加し過去最高となった（出入国在留管理庁 2023）¹。一部の大都市や地域だけでなく日本全国で中長期にわたって生活する多様な背景を持った人々が増加している。このような日本社会で生活する外国人（以下、外国人生活者とする）が円滑な生活を送るためには日本語能力を身につけることが重要であり「日本語教育の推進に関する法律」も 2019 年に施行された²。この日本語能力には「聞く」、「話す」だけでなく、ひらがな・カタカナ・漢字を使い書き言葉で提供される日本語の情報を「読む」能力も身につけることが必要となる。

平田（2019）は、外国人生活者向けの漢字の教科書から、日常生活の中で接触しやすいと思われる漢字 100 字を選定した。その結果、日本語能力試験 N5、N4 レベルに相当する初級の漢字が全体の 7 割を占め、生活で接触しやすい漢字と日本語学習者の初級の漢字は同じではないものの、初級の漢字を学習することで生活に必要な漢字の 7 割程度は読めるようになる可能性があるとして述べている。

漢字だけでなくカタカナ語も内容語であり日本語で情報を「読む」ためには正しく理解する必要があるが、カタカナ語は日本語学習者にとって学習が難しいものの一つであるとされている（石綿 2001、中山・陣内・桐生・三宅 2008 等）。地域日本語教室の学習者に質問紙調査を実施した畑・山下・轟木

¹ 出入国在留管理庁（2023） 令和 5 年 6 月末現在における在留外国人数について
https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13_00036.html（2023 年 12 月 25 日閲覧）

² 文化庁「日本語教育の推進に関する法律について」 https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyousei/shokan_horei/other/suishin_houritsu/index.html（2023 年 12 月 25 日閲覧）

(2019)でも、カタカナ語の難しさや学習への要望の声が大きいことを明らかにしている。さらに、金(2012)等では、従来、カタカナ語は周縁的な存在とされてきたが、単に量的に増加するだけでなく、その一部は広範囲・高頻度に用いられる基本語彙として定着していることを指摘しており、効果的なカタカナ語学習の検討が急務である。

しかしながら、漢字等の学習に比べてカタカナ語の学習のための教材は少ない。初級のカタカナの文字学習に関する教材や、日本語能力試験に出題されるカタカナ語彙をまとめた教材は存在するが、それらは日本で生活するためにどのようなカタカナ語を優先的に学習すべきかという指針では作られてはいない。また、扱われるカタカナ語の数が多く学習者にとって負担が大きい。生活に必要なカタカナ語教材の開発のための第一段階として、平田・山下(2020)では、外国人生活者が接触しやすいカタカナ語の実態を調査した。地域日本語教室で使用される日本語教科書等からカタカナ語を抽出し、生活に必要と考えられるカタカナ語 129語を選出し難易度を分析した。その結果、それらのカタカナ語の8割は旧日本語能力試験2級、1級と級外に相当する難易度の高い語であることが明らかになった。漢字の学習とは異なり、いわゆる一般的な初級学習者を対象とした語彙だけでなく、生活者に特化したカタカナ語の学習が必要になると考えられる。

カタカナ語は分野や領域による専門性も高く、教材開発には学習者のニーズに合った適切な語彙の選定が肝要である。日本語教育の語彙表は新旧みられるが、カタカナ語に特化したものは玉村(1991)や澤田(1993)などのみであり、また、新語が日々生まれては消えていく語のあるカタカナ語への対応が必要である。平田・山下(2020)でも、カタカナ語の新陳代謝が激しいことや地域での生活に必要な固有名詞等も含めた地域性への配慮が課題として残された。

そこで、本研究では、生活者と対象としたカタカナ語彙の学習教材の開発に活用できる語彙リストを作成することをめざし、日本の地方自治体の広報誌で用いられるカタカナ語の使用実態を調査・分析することを研究目的とする。外国人生活者の日本語支援に必要となる日常生活に関わる語として基本的なカタカナ語に焦点をあてデータベースを作成して語彙リストを精選する。新語や地域の特性にも対応できるよう語彙リストを活用した教材作成をめざす。この語彙は地域日本語教室で学ぶ生活者だけでなく日本で暮らす学習者に共通して有用であると考えられる。

2. 調査方法

2.1 調査対象

本研究の調査対象は香川県広報誌、みんなの県政「THE かがわ」(以下、「THE かがわ」とする)の2021年から2023年のそれぞれ2号の計6号である。香川県が地域情報や生活情報を住民に伝えるための広報誌であり、香川で生活する外国人住民にとっても情報源として重要であると考え調査対象とした。「THE かがわ」は香川県(広聴広報課)が毎月発行し、香川県内の全世帯を対象に配布されるほか、電子書籍版もありスマートフォン・タブレット端末用アプリでの閲覧も可能である。なお、2018年9月以降のバックナンバーはWebサイトに掲載されている³。

各号の構成は、まず巻頭に特集ページ(4ページ)があり、次に県政通信と挑戦するかがわのものづくり企業(各2ページ)、にぎわいてんこもり(1ページ)、瀬戸の島めぐり(1ページ)、みんなの便利帳(3ページ)、VOICEと県政への声(1ページ)と続き、最終ページには知事のコラムがある。

³ 広報誌「THE かがわ」バックナンバー <https://www.pref.kagawa.lg.jp/kocho/koho/kohoshi/backnumber.html>

2022年6月号を例にすると、特集ページとして「インターハイ開幕直前」があり、県政通信では香川県産品コンクール募集と夏の節電チャレンジ登録など県からのお知らせ、にぎわいてんこもりでは屋島少年の家主催のサマーキャンプなど県内で開催予定のイベントの参加者募集、みんなの便利帳はコロナワクチンなどの大切なお知らせ、県職員採用試験、県営住宅入居者の募集や外国語講座などさまざまなお知らせの掲示板からなる。

なお、今回分析の対象としたのは2021年1月と6月、2022年6月と12月、2023年1月と6月の計6号である。2022年は巻頭の特集のテーマが1月の新春知事対談では2020オリンピック競技大会で金メダルを獲得した県出身の選手との対談、同年6月もインターハイに関するものであり、ともにスポーツ関連であり内容が重複すると考えられたので6月と12月を調査対象とした。なお、紙版には広告の掲載されたページもあるが（Web版では空白となっている）、広告欄で使用されたカタカナ語は分析から除外した。

2.2 分析方法

「THEかがわ」計6号からカタカナ語を抽出し集計をおこなった。抽出に当たっては、カタカナ語が使われる文脈もわかるように前後の語も含めて文等の単位で抜き出した。すべてのカタカナ表記の語のうち、例えば「モモ（桃）」などのように和語や漢語をカタカナで表記している語は区別して分類した。さらに、カタカナ語が単純語か複合語（和語や漢語との複合語とカタカナ語同士の複合語を含む）であるかに分類した。各号それぞれの「特集」とそれ以外のページに分けて延べ語数と異なり語数を集計し、複合語や品詞などの確認をおこなった。

3. 結果と考察

3.1 特集

まず、各号の「特集」に出現するカタカナ語を抽出した。各特集のタイトルと出現するカタカナ語の一覧は表1のとおりである。

次に、特集間で重複しているカタカナ語を調査した。表1より、特集間で重複して出現しているカタカナ語は、「アイデア」、「アプリ」、「オープン」、「コロナ」、「コロナウイルス」、「サミット」、「スピード」、「チーム」、「デジタル」、「ホームページ」、「メートル」、「レベル」の計12語である。そのうち、「チーム」は四つの特集、「コロナウイルス」は三つの特集において重複しているが、残り10語は二つの特集のみに出現している。以上のことから、特集間のカタカナ語の重複は少なく、ばらつきが大きいことがわかる。

このように、特集は扱う話題によって語彙に差が生じるため、本研究では特集部分の詳細な調査はおこなわず、次節以降は特集以外の部分についての調査結果を述べることとする。

表1 特集タイトルおよびカタカナ語の一覧

号	2021.1	2021.6		2022.6
特集 タイトル	新春知事鼎談 「デジタル化で 優しい社会に」	夏の豪雨に備えて	デジタル社会の 実現に向けて	インターハイ 開幕目前
カタカナ 語 (異なり)	アイデア アイデアボックス アルゴリズム インクルーシブ インフラ オープン コロナ コロナウイルス サービス サテライト シームレス システム スタートアップ スタンフォード ディープラーニング データ デジタル デジタルディバイド テレワーク ビジョン ビッグ ビッグデータ プロセス ポジション マイニング リアル リテラシー リモート ワーキンググループ ワークフロー	アプリ ゲリラ コース コード タイミング ダウンロード ダム ナビ ホームページ メートル レベル	アイベース アプリ アントレプレナーシップ イノベーション エンジニア オープン オンライン キャッシュレス キャリア クレジット コーディネーター コーディングブートキャンプ サンポート スタイル スピーディー セキュリティ セミナー ゼミナール タイピング チーム デザイン デジタル トレーナー ニーズ パート パソコン ビジネスマッチング フリーランス フリマサイト プレゼンテーション プロ プログラミング プログラミングスキル プログラム ブロックチェーン プロトタイプ ベース ポートフォリオ ホームページ メンバー リアル ロボット ワーキングマザー	アーチェリー アイデア イオンモール イベント インターハイ ウィンターカップ カウントダウンボード キャラクター キロ クラブ ジャパンプロジェクト ジャンプ スケール スタジアム ステージ スピード スポーツ スローガン チーム チームワーク チャンス デモンストレーション トラック バスケットボール バレーボール パワー ハンドボール フィジカル プレー ブロック ペア ベスト マスコット メートル ヨット リーフレット レース ロード ロードレースコース ロングファン

2022.12		2023.1	2023.6	
花いけパトラーが 香川に集結	コロナ禍における 新たな支援策	新春知事対談 「「香川の野球」 自主性で変革」	瀬戸の宝石うちの島 「与島・小与島」	G7香川・高松 都市大臣会合
アイデア ジャパンプロジェクト ステージ スピード チーム デザイン バトル ピンク フラワーアレンジメント ブレッシャー ペア ベース ホール メイン レグザムホール	グループ コールセンター コロナ コロナウイルス ゼロ フリーダイヤル ポイント マイナンバーカード ワクチン	アドバイス キャッチャー グラウンド コロナウイルス サイン サッカー シーン ジャイアンツ ジャイアンツファン タイガース タイミング チーム チームメイト ドラフト トレーニング ノート バッティング パフォーマンス ファン フラット フリーバッティング プレー プロ ベスト ポイント ホームラン メッセージ メニュー ラン レギュラー	アクセス イギリス インパクト インフォメーション オリーブ ガイド カレンダー グランドキャニオン コンクリート サミット スポット パーキングエリア バス リチャード・ ヘンリー・ ブランドン	アカウント アピール アメリカ イギリス イタリア イベント カウントダウン ガス カナダ カフェ クルーズ サポート サミット テーブル ドイツ ドローン ニュース パトロール フォロー フランス ホームページ マイカー メディア レベル

3.2 特集以外

3.2.1 外来語

各号の特集以外のカタカナ語を抽出したところ、英語由来の外来語と、和語や漢語をカタカナ表記した語が存在した。本項では、前者である外来語についての結果を述べる。各号におけるカタカナ外来語の延べ語数と異なり語数は表2のとおりである。

表2 特集以外に出現するカタカナ外来語の語数

号	2021.1	2021.6	2022.6	2022.12	2023.1	2023.6	平均	計
延べ語数	365	346	286	362	373	274	334	2006
異なり語数	186	185	154	192	200	159	179	602

次に、計6号に出現するすべてのカタカナ語および出現回数を調査した。出現回数4回以上の語を出現回数順に並べたものを表3に示す。表3より、出現回数上位の語には、ITに関する語（ホームページ、インターネット、スマホ、アプリ等）、および新型コロナウイルス感染症に関する語（コロナウイルス、ワクチン等）が多いことがわかる。さらに、地域固有の語（オリーブ、サンポート⁴等）も出現していることがわかる。

表3 特集以外に出現するカタカナ外来語の一覧（出現回数4以上）

順位	語	出現回数	順位	語	出現回数
1	センター	71	18	パソコン	17
2	ホームページ	61	19	イベント	16
3	ページ	55	20	コールセンター	16
4	エネ	37	21	ブロッコリー	16
5	メール	33	22	テーマ	15
6	プレゼント	29	23	テレビ	15
7	オリーブ	28	24	ケーブル	14
8	ファクス	26	25	コード	13
9	インターネット	24	26	トップページ	13
10	コロナウイルス	24	27	フルーツ	13
11	スマホ	22	28	ミュージアム	13
12	アプリ	20	29	カメラ	12
13	クイズ	19	30	サイト	12
14	サンポート	19	31	パッケージ	12
15	ケーブルテレビ	18	32	コミュニティチャンネル	11
16	システム	18	33	チャレンジ	11
17	ニーズ	18	34	マルシェ	11

⁴ 「サンポート」は、香川県高松市の高松港周辺地域を指す名称である。

順位	語	出現回数
35	アート	10
36	コロナ	10
37	メールアドレス	10
38	ワクチン	10
39	エネラベル	9
40	コンクール	9
41	サン	9
42	スイーツ	9
43	デザイン	9
44	ネット	9
45	メーカー	9
46	モニター	9
47	アクセス	8
48	コーナー	8
49	コロナワクチン	8
50	サポートステーション	8
51	セミナー	8
52	マスク	8
53	エラー	7
54	オンライン	7
55	サービス	7
56	サポート	7
57	ダウンロード	7
58	デジタル	7
59	ナビ	7
60	ホール	7
61	ボランティア	7
62	イメージ	6
63	インストール	6
64	インフルエンザ	6
65	エアコン	6
66	キーワード	6
67	コース	6
68	コメント	6
69	サポステ	6
70	ソフトウェア	6

順位	語	出現回数
71	チャンス	6
72	パブリック	6
73	ビル	6
74	ヒント	6
75	ルール	6
76	レクザムホール	6
77	ワクチンハラスメント	6
78	アンケート	5
79	インフラ	5
80	エネルギー	5
81	オリンピック	5
82	カタログポケット	5
83	カヌー	5
84	キッズサイト	5
85	ギャラリー	5
86	ジャンボフェリー	5
87	シンボルタワー	5
88	スポーツ	5
89	センサー	5
90	ソフト	5
91	タウンページ	5
92	トイレ	5
93	ファイブアローズ	5
94	ブランド	5
95	プロジェクト	5
96	ペーパークラフト	5
97	ボイス	5
98	ポイント	5
99	ポータル	5
100	メートル	5
101	ランク	5
102	リスク	5
103	イラスト	4
104	インバウンド	4
105	ウェブサイト	4
106	キャンペーン	4

順位	語	出現回数
107	キロ	4
108	グラビア	4
109	コレクション	4
110	コロナハラスメント	4
111	サークル	4
112	ジェンダーレス	4
113	スタート	4
114	スピード	4
115	スマートフォン	4
116	ソウル	4
117	ダイヤル	4
118	チーム	4
119	チェック	4
120	テキスト	4
121	バーコード	4
122	バトル	4
123	ピアノ	4
124	ファンド	4
125	フェンシング	4
126	プラットフォーム	4
127	ベジタブル	4
128	ポータルサイト	4
129	ポリエチレン	4
130	ラジオ	4
131	リハビリテーション	4
132	リフレッシュ	4
133	レポ	4

次に、出現する語のうち、複合語の割合を調査した。本研究では、①カタカナ語とカタカナ語以外の混種語（省エネ、ライブ配信、新型コロナウイルス感染症等）、②カタカナ語とカタカナ語が・（中点）で接合して一語を形成しているもの（ピアノ・コンクール等）を、複合語と判定した⁵。各号に出現するカタカナ語のうち、複合語と単純語の語数は表4のとおりである。さらに、計6号の複合語の割合を示したものが図1である。図1のとおり、延べ2006語のうち、58.47%にあたる1173語が複合語として出現している。

⁵ 複数の形態素で形成されていても、間に・（中点）の表記のないもの（コロナウイルス、オンラインセミナー、インスタグラムフォトコンテスト等）については、本研究では複合語と判定しなかった。

表4 特集以外に出現するカタカナ外来語の複合語と単純語の語数

号	2021.1	2021.6	2022.6	2022.12	2023.1	2023.6	計
複合語の語数	210	179	161	231	219	173	1173
単純語の語数	155	167	125	131	154	101	833
延べ語数	365	346	286	362	373	274	2006

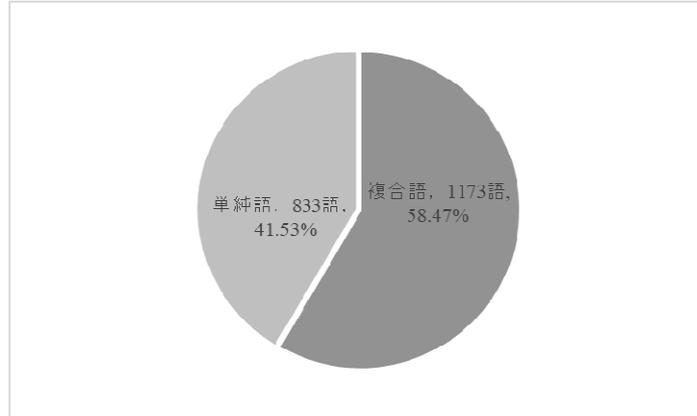


図1 特集以外に出現するカタカナ外来語の複合語と単純語の割合

次に、語の品詞を調査した。各号のカタカナ語の名詞と名詞以外の語数を表5に示す。さらに、計6号のカタカナ語の名詞の割合を示したものが図2である。図2のとおり、延べ2006語のうち、96.56%にあたる1937語が名詞である。

表5 特集以外に出現するカタカナ外来語の名詞と名詞以外の語数

号	2021.1	2021.6	2022.6	2022.12	2023.1	2023.6	計
名詞の語数	357	333	276	348	360	263	1937
名詞以外の語数	8	13	10	14	13	11	69
延べ語数	365	346	286	362	373	274	2006

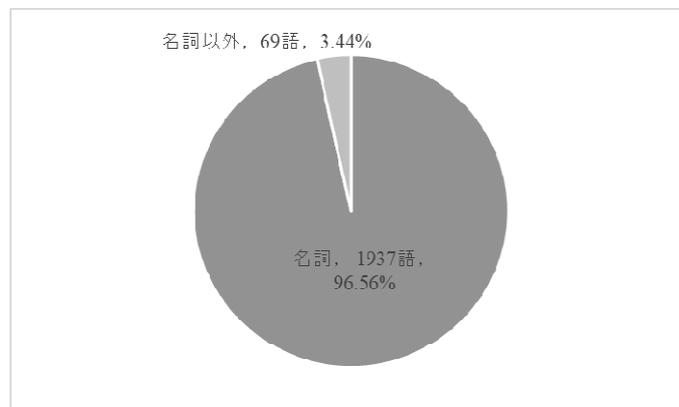


図2 特集以外に出現するカタカナ外来語の名詞と名詞以外の割合

3.2.2 和語や漢語をカタカナ表記した語

本項では、和語や漢語をカタカナ表記した語の出現結果を述べる。各号における延べ語数と異なり語数は表6のとおりである。

表6 特集以外に出現する和語や漢語をカタカナ表記した語の語数

号	2021.1	2021.6	2022.6	2022.12	2023.1	2023.6	計
延べ語数	28	11	5	22	12	7	85
異なり語数	17	5	4	11	3	4	37

次に、計6号に出現するカタカナ語を出現回数順に並べたものを表7に示す。表7より、出現回数上位の語には、地域の特産品に関する語（モモ、タコ、イリコ等）が多いことがわかる。一方、オノマトペのカタカナ表記（キラリ、ギョッ、ピョンピョン等）がそれほどみられないことがわかる。

表7 特集以外に出現する和語や漢語をカタカナ表記した語の一覧

語	出現回数	キラリ	2	チラシ	1
モモ	10	ゴマ	2	デコボン	1
タコ	9	チョコ	2	ナノハナ	1
イリコ	8	ツナグ	2	バテ	1
ハナショウブ	5	ニホンズイセン	2	バネ	1
アサギマダラ	4	マチイロ	2	パリッ	1
ニンニク	4	ウメ	1	ヒコーキ	1
ニンジン	3	ギョッ	1	ヒノキ	1
ノリ	3	コヤマ	1	ピョンピョン	1
イチオシ	2	サシ	1	フジバカマ	1
イチゴ	2	シソ	1	モクモク	1
ウナギ	2	セトウチ	1	モチモチ	1
カ	2	チョウ	1		

4. まとめと今後の課題

本研究では、日本の地方自治体の広報誌で用いられるカタカナ語の使用実態を調査することを目的として、2021年から2023年に発行された香川県広報誌「THE かがわ」計6号よりカタカナ語を抽出し、分析をおこなった。その結果、1) IT 関連および新型コロナウイルス関連のカタカナ語が多く出現すること、2) 出現するカタカナ語の58.47%が複合語であること、3) 出現するカタカナ語の品詞の96.56%が名詞であることがわかった。平田・山下（2020）は、生活に必要と考えられるカタカナ語の8割は旧日本語能力試験2級以上の難易度の高い語であり、一般的な初級学習者が学習している語彙とズレがあることを指摘しているが、本研究でも同様の結果を得たといえる。また、地域性のあるカタカナ語の出現から、生活者が接触する語彙には地域差がある可能性が示唆された。

一方で、本研究の調査対象とした広報誌のデータ数は少なく、発行時期も限定的であるため、引き

続きデータを収集し、コロナ禍以前との縦断的な分析をおこなう必要がある。さらに、日本全国の広報誌とも比較し、全国的な共通性と地域の特性を探る横断的な分析をおこない、生活者のカタカナ語彙の学習教材の開発に活用できる語彙リストを作成することをめざしたい。

謝辞: データ入力の一部にご協力いただいた香川大学教育学部日本語語彙論 2022 年度受講生の皆様に感謝いたします。本研究は JSPS 科研費 JP20K00699 の助成を受けたものです。

参考文献

- (1) 石綿敏雄 (2001) 『外来語の総合的研究』東京堂出版
- (2) 金愛蘭 (2012) 「外来語の基本語化」陣内正敬 (編) 『外来語研究の新展開』おうふう, pp.29-45.
- (3) 澤田幸子 (1993) 「日本語教育のための基本外来語について」『奈良教育大学紀要』42(1), 225-239.
- (4) 玉村文郎 (1991) 「日本語における外来要素と外来語」『日本語教育』74, 13-27.
- (5) 中山恵利子・陣内正敬・桐生りか・三宅直子 (2008) 「日本語教育における『カタカナ教育』の扱われ方」『日本語教育』138, 83-91.
- (6) 畑ゆかり・山下直子・轟木靖子 (2019) 「地域の日本語教室における日本語学習者と支援者の意識－香川県における日本語学習支援活動に関する調査より－」『比較文化研究』134, 159-168.
- (7) 平田史織 (2019) 『外国人生活者の漢字学習活動について』, 修士学位論文, 香川大学大学院教育学研究科学校教育専攻教育支援コース日本語教育分野
- (8) 平田史織・山下直子 (2020) 「外国人生活者のための基本カタカナ語彙について」『香川大学教育学部研究報告』2, 83-92.
- (9) 茂木俊伸 (2015) 「コーパスを用いた外来語サ変動詞の分析-『マークする』を例として-」『文学部論叢』106, 83-95.
- (10) 山下直子・轟木靖子・畑ゆかり (2018) 「日本語母語話者のカタカナ語と類義語の使い分け: カタカナ語と類義の和語・漢語の調査から」『香川大学教育学部研究報告第1部』149, 45-52.
- (11) 山下直子・平田史織 (2020) 「日本語母語話者のカタカナ語とその類義語の使用実態-BCCWJ コーパスの分析から-」『日本語教育連絡会議論文集』33, 109-118.